

さわがせ

号数 第 3 3 4 号
発行日 令和 5 年 3 月 1 日
発行所 金光教 韃教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



恒例のもちつき大会が開催されました (1月 29 日)

神のおかげを受けての終焉

教会長 鍵山 公生

初代教会長 80 年

今年の 1 2 月には初代韃教会長和田安兵衛先生の 80 年の式年祭が巡って参ります。その先生が「わしは神さんのおかげを受けて、百歳も百二十歳も生きるんだ」と仰っておられたということですが、最近は百歳を超える人が多くなりました。どなたでもみな健康で長生きさせていただきたいと願っています。



地球上の生き物は生まれた以上必ず死んでしましますが、今回は死に際の姿のあれこれを考えてみたいと思います。

安兵衛先生は、89歳とその当時にしてはとても長寿でした。晩年は寝床に着かれることはありましたが、亡くなる 1 週間前に某教会の先生が訪ねてこられた

ときには起きて、元気よく対話されるほどであられたと聞いています。

二代教会長和田こゆみ先生は、寢床に付かれたのは1年2ヶ月間でした。

ある方は、こゆみ先生は「金光様にお継りしていたら決して困ることのないおかげをいただけます。と仰っておられたのに1年余りも床に伏せられた」といつて不審を抱かれた方がありました。

その方はおかげいただくとは長く床につかず、「ピンピンころり」という生き方ができると思っておられたのでしょうか。人間の生き死には神様がお決めになることで、その人の生き方や、神様への真の向け方次第で異なると思います。

こゆみ先生は12月1日の月次祭並びに老先生（和田安兵衛師）の例年祭をお仕えになられたその夕方、近くの信者さん宅のお風呂に入れていただき、そこで貧血を起こし寢床に付かれたのでした。そのとき先生は「私は今朝から何も食べてしまへんねん」と仰ったのです。その日はお一人で祭典の準備をして仕えられ、その上に元気よくお説教もされて、そのままお湯に浸かりに行かれたのですから若い者でも疲れ、貧血を起こすのも当然のことと思います。先生は気丈夫で、弱音を吐くような方ではなく、他人に頼らず頑張られたのでした。

先生は伏せられてから20日余り病院で治療を受け、年末から堺大浜教会において鍵山藤子先生の看護を受けつつ養生することになりました。

そして靱教会の広前は、まだお道の教師に成り立ての私ではありましたが、至らぬながら金光様のお手代わりをさせていただき、日々の御祈念も、お取次ぎのご用の上にも、また月例祭も差し支えることなく仕えられました。そのように決して困ることはありませんでした。

老人のお世話は限りなし

私の義母は95歳で健全です。毎日介護施設から送迎の車にてデイサービスへ行き、2食付き、入浴、時には折り紙や運動、習字、ゲームなどいろいろ楽しませていただき、妹の家に帰ってきます。妹夫婦はとても優しく面倒を見てくれ、何の不足もなかったのですが、時折おしめの外へ漏らしたり、迷い子になるといったことが重なってくると、だんだん耐えられなくなってくるというのです。そこで先日近所にできた介護医療院へ入所させていただきました。



入所時担当の医師に、「今後の医療について何か問題があっても延命処置などをしないように、自然のままの治療を望む」とお願いしたというのです。長生きすれば幸せということではなく、却って病人を苦しめることにならないかと心配し

てのことでした。

見事な神上がり

その昔、定子さんという方が参拝しておられました。鳥取県の田舎からお姉さんを訪ねて大阪に出てこられました。お姉さんのご主人は釣り竿の製造販売をしておられ、その仕事の手伝いをしていました。そして韃教会の熱心な信者さんであったお姉さん夫婦に連れられて参拝されるようになりました。

和田こゆみ先生はその方の器量も良くいい人だからと安治川教会の水野武之助先生に紹介されてお嫁に行かれました。その頃戦争が激しくなり、教会広前は空襲で焼け、厳しい生活を余儀なくされながら4人のお子様を立派に育て、それぞれ独立させられ、後には豊中に広前を新築されるなど、次々におかげをいただいてこられました。

今から20年前の1月8日ころでした。娘さんとともに参拝され、しばらく自分の通ってきた半世紀を聞いてほしいとあって、お結界で2時間ほどじっくり話され、これで心がすっとしたと言ってにこにこしてお帰りになりました。

その後10日あまりたった夜のこと、孫さんが家に遊びに来られ、その帰り際に、おばあちゃんの部屋の電灯がまだ灯いているのを見て、ケイタイで家の方に「おばあちゃんの部屋を見てあげて」と連絡して帰られました。家の方が見に行くと、ご自分の部屋でこたつに入ってお箸を持って夕食を頂いておられたそのままの姿でこと切れておられたのです。ほんの少し前までお元気に話していたおばあちゃんのことを思い、家族のみんなは大変驚かれました。

しかしよく考えてみると、亡くなった日の10日余り前には韃教会に参拝されて、自分の心に持っていた諸々の苦勞話を全て話され、家族には自分のしもの世話をしてもらうこともなく、94歳という年齢をいただかれ、見事な神上がり方だと感嘆するのです。

神徳を受ければ困らない生き道を歩める

さて和田こゆみ先生のお話に戻りますが、もし先生が急に亡くなったとされたら、多くの信奉者の方はこれからどうすればいいか、これからお取次ぎをいただくのにどうすればいいかとうろたえることでしょう。しかし先生が一年あまり床に伏せておられたおかげで、先生のおられるところへ行けば会うこともでき、お話もさせていただけました。そのうちに信奉者の方もいつかはお別れしなければならないという心構えができたことでしょう。それが神様のお心配りの素晴らしさ、ありがたさです。



神徳を受ければこのように後々困ることない道を付けてくださいます。これをおかげと言わずに何をおかげというのでしょうか。「ポックリ往生」ばかりがおかげではなく、それぞれの人、状況に合ったおかげの頂き方があるのだということに気づかせていただけます。

私たちの後の家族が信心継承でき、差し支えなく仕事が続いていけるか、その他いろいろの状況が整っているかなど、おかげをいただけるようお願いさせていただきたいものです。

「もう生きていくのはしんどい。もうこの辺で」と思われる方が中にはあるかもしれませんが、体が不自由で、痛い、苦しいという問題を抱えている方には辛いことでしょう。また日常の生活の中で自分のことしか考えず、希望や生きがい無くした人は気の毒です。しかし歳を重ねてもできることは、この歳まで命をいただいてきたことに感謝し、人の幸せを祈ることです。

金光教祖様は、「このお道の信心で世界を包み回すようなおかげをいただきたい」と大きな願いを持っておられました。大きく、大きく、もっと大きく元気いっぱい生かしていただき、日々を面白く、うれしく、ありがたく生き生きと過ごさせていただき、命の尽きるまで人の助かるご用にお使いいただきたいと願うのです。

(2月1日の月例祭教話より)

道の子「アイススケート大会」に参加

2月23日、中近畿教区少年少女会主催の道の子アイススケート大会に当教会から7名が参加しました。3年ぶりの開催でありましたが、何度も参

加している子どもたちは、スムーズに滑り出しスケートリンクを何周も回って楽しみました。





月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(3月12日・4月22日ともに午前10時30分より)

令和5年3月

- 1日(水) 月例祭執行 午前10時30分
- 4日(土) ご本部月参拝 午前6時教会出発
- 12日(日) 月例祭並びに月例霊祭執行
午前10時30分
- 17日(金) 信徒共励会 午前10時
- 21日(祝) 春季霊祭執行 午前10時30分
- 26日(日) 春の合同墓前祭 午前10時
瓜破霊園にて

祭典はすべて

午前10時30分より

執り行われます。

3月21日(祝) 午前10時30分より

春季霊祭 執行

4月

- 1日(土) 月例祭並びに勸学祭執行
午前10時30分
- 8日(土) 月例祭執行 午前10時30分
- 9日(日) ご本部 天地金乃神大祭参拝
新大阪駅 午前8時30分集合
- 14日(金) 信徒共励会 午前10時
- 16日(日) うりわり墓参 午前7時
- 22日(土) 月例霊祭執行 午前10時30分



5月

- 1日(月) 月例祭執行 午前10時30分
- 2日(火) 御本部参拝 午前6時教会出発
- 3日(祝) 大祭準備大掃除 午前10時
- 4日(祝) うりわり墓参 午前7時

さわかせ賛助会

さわかせ賛助会追加分を掲載いたします。(敬称略)



ご協力ありがとうございました。

5月14日(日) 午前10時30分より

天地金乃神大祭奉行

祭典後説教：大阪府連盟布教部講師